



2015年4月15日 発行

2015年春号

<第30号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 info@works-union.org http://works-union.org/taion.html

最近の事

ふうせんバレークラブが
んばつてます。がんばつて
賞状もらいました。関西大
会優勝するようにします。
合宿は今年もオッケーで
す。バレーして肉食べてキ
ャンプファイヤーします。
高橋しんじさん、高橋るいこ
さん、山本さん、鳥居さ
ん、松川さんです。

お父さんは3月5日
(木)71歳です。お母さん
は10月15日(木)66歳で
す。元気でいてほしいで
す。かずきくんももえちや
んもゆうかちゃんもいます。
好きです。

匠では、高橋るいこさん
と高橋ひろしさんと阿部さ
んと、横田さんと全員が
んばつてます。中川さんはお
もしろいです。

仕事は富士文具とサキカ
ワとベロスです。やんぶ先
生と佐々木先生と絵をかい
ていて、大島先生はボール
を使います。みんなで楽し
いです。

松井 貴行

ユニオンの行事

これまで機関紙の紙面では紹介している行事ですが、その意義を検証したことがないので、一度ふり返ってみたいと思います。

《スポーツフェスタ》

ユニオンが始まって以来、参加している行事です。一時は希望者が減っていくことがありましたが再び盛り返し、昨年は四十五名の参加がありました。

最近はおウリングが大人気です。スポーツフェスタの魅力は、なんとと言っても記念メダル。一年中首にぶら下げている人もいます。でもそれ以上の魅力は、普段は会えない利用者さん、職員、そしてユニオンに来る前の施設や学校で一緒だった友人や職員に会うことのようにです。

《法人忘年会》

スポーツフェスタ同様、ユニオンが始まって以来続けていた行事です。現在はユニオンの全会員さんを対象に行っています。

この八年ほどは、ホテルでの会食にこだわっています。普段はホテルに踏み入る機会のない利用者さんも、この時ばかりは、よそ行きの服をタンスから取り出したり、アクセサリをつけてみたり、ちょっとお化粧してみたり……

以前、服のコーディネートが苦手なグループホームの男性利用者さんが、担当職員に忘年会の服の相談をしたことがありました。二人でユニクロに行き、気に入るまで何時間もかけて何着も試着したことがありました。ばつちりコーディネートが決まった利用者さんは、誇らしげで何とも言えない表情をしていました。

ホテルの会食の費用は高めで、自己負担するにはち

よつと痛い出費ですが、そうした非日常の雰囲気を楽しみたいと思います。

そう言えば、最近そんなことも職員間で確認していない気がします。今一度、職員にとつても非日常を考える大事な機会にしたいと思います。

《ゆるスポ》

一昨年の「新春運動会」から発展し、今年は「ゆるスポーツフェスティバル（以下、ゆるスポ）」として近所の三軒家西小学校で開催しました。ユニオン事業所、グループホーム、居宅利用の約六十名の利用者さんが参加されました。利用者さん、職員の体力を配慮

して、名前の通りゆるくて、全員が楽しめるような競技を行いました。

「ワークス歩」の段ボールで作ったフライングディスクや職員がかごを持って走る変則玉入れ等、どの競技も好評でした。生活介護「和」「匠」で普段から練習しているダンスを披露する機会にもなりました。

《ゆきあそび》

今回の紙面にもあるように、二月十一日に遊覧車箱館山スキー場に行きました。利用者さんにとって、白銀の世界を体験することは、めったにない機会です。

ユニオンの行事は、基本的に強制参加のものはありません。特に自閉的傾向のある利用者さんの保護者の方からは「強制にしてくれ、参加しやすいねんけい」と言われることもあります。

行事にかかるお金は実費というところもありますが、

壮年期の方が多く、自分のスタイルや意向がはっきりしている利用者さんが多い中で、「参加しなければならぬ」と決めなくてもよいのではないかと思います。ただ、利用者さんの中には経験のなさからその行事を選ばない方もいます。そうした利用者さんに何年もかけて職員がアプローチし、参加できるようにすると毎年楽しみにする方もいます。職員のそうしたアプローチは続けたいと思います。

「行事」は、利用者さんにとつては非日常を体験する、新しい世界と出会う、仲間と楽しい時間を共有する、という意味があります。職員にとつては、利用者さんの違った顔を見ることから、何よりも収穫です。そこから、支援のヒントを得ることもしばしばです。

これからは新しい場面を創り、利用者さんの違った顔を発見していきたいと思



平成二十四年に、「障害者総合支援法」に改正されて早や三年が経過し単価改定が行われる。

時の流れの中で、利用者の生活は、また職員たちの生活状況は、改善されているのだろうか？

「障害者総合支援法」では、「自立した」の代わりに、「基本的な権利を享有する個人としての尊厳にふさわしい」日常生活又は社会生活を・・・と明記されており、障害福祉サービスに係る給付に加え、地域生活支援事業による支援を明記し、それらの支援を総合的に行うこととすると謳われている。これは私が福祉の業界に足を踏み入れた三十数年前の障害者を「治療教育」の

対象と捉えていた措置の時代に比べると隔世の感が有り、「障害は克服しなければならぬもの」と捉えなくてもよいのだと、教えてくれる。

しかし、実際の利用者たちの生活は、基本的な権利を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができていないとは、まだまだ考えられない。

常々言っていることだが、グループホームでの生活は、入所施設での生活に比べればはるかに自由はあるが、「集団生活」に変わりはない。制約も多い。

地域の中で「ひとり暮らし」をするためには、支援の体制があまりにも整っていないと考えている。

私たちワークスユニオンは、「居宅介護」の制度を使いながら、何とかひとり暮らしを望む利用者の生活を支えているが、これは正道

ではない。

苦手なことやできないことは、居宅介護の制度で、ヘルパーを派遣し支援を提供すれば事足りる。

しかし、知的な障がいや精神的な障がいを持つ人のひとり暮らしには、様々な心配や不安が付きまとう。支援者による、金銭管理や不安を取り除くための適切な助言などの支援が提供されなければすぐさま瓦解する。

ワークスユニオンでは、担当職員がメンタルケアに努めているから、そのひとり暮らしは安定できているのだ。

しかしこのような助言や支援を提供するサービスは、制度上は存在しない。

この部分が制度として構築されなければ、ひとり暮らしを支える体制が整ったとは言えないし、利用者の安心を担保することにはならない。

平成二十七年より、す

べての障害福祉サービスを利用する場合、サービス等利用計画書の提出が義務付けられるが、全国的に計画を立案する相談支援事業所の整備が遅れ、「セルフプラン」というものが横行しそのような状況となっている。

自分がどういうサービスを利用したいかをきちんと決められる人なら、障害福祉サービスを受ける必要も本来ないはずだ。本末転倒も甚だしい。

どんなプランがいいかを計画するのは重要なことだ。それを立案する相談支援事業所が増えないのは現行の単価ベースでは運営できないからにはかならない。早期の単価改定を願う。

現行の制度上、「高齢期を迎えた障害者」の場合は、本来「介護保険」が優先適用されることとなっているが私は、高齢期を迎えても障害福祉サービスを使い続ける方が、より充実した生活ができるかと考えている。

懸案事項となっている「高齢期を迎える障害者の支援のあり方」については、早期に、「介護保険の優先適用の廃止」が決定されることを切に望む。

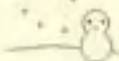
福祉業界では、「寿退職」という言葉が、福祉の仕事は続けたいが今の給与では結婚後の生活設計ができないので、転職せざるを得ないとの意味で使われてきた。他業界より月額で数万円

低いと言われてきた福祉業界の職員の給与について国としての改善方針が打ち出され、一期に月額一万二千円も増加するのだ。これは久々の朗報だ。

しかし、福祉業界の給与水準はまだまだ低く、他業界の給与水準には追いついていない現実がある。

「寿退職」という言葉が死語と成る様、更なる改善方針が打ち出され、福祉職員が、自負とやり甲斐を持って、福祉の仕事に打ち込める日の来ることを願う。

あけましておめでとう



今年二月十一日祝日に、ユニオン初の試みとして滋賀の箱館山スキー場に雪遊びへ行きました。

朝早くにも関わらず集合時間少し前には集まり、晴天の中出発できました。移動時間は三時間程でしたが、バス内では自己紹介やゲームをして楽しみました。

スキー場が近づいてくると次第に景色もかわり、歓声が上がりました。八人乗りのゴンドラでは、標高の高い場所より見える一面真っ白な景色や眼下に見える琵琶湖も絶景でした。

ソリ滑りの場所は新雪の丘で、歩くと雪を踏み音がしました。丘に着くと早速ソリをしたり、雪合戦をする人、雪の上で寝転んで空を見上げたり、雪で職員を埋める人、雪だるまを作ったり、雪をかじる人、それぞれ思い思いに過ごし、とても楽しんでいました。

みんながいる前では、恥ずかしかつたのか傍観していたAさんも、休憩で人が減った時にチャンスだと思つたのか何度も駆け上がりソリを楽しんでいました。

私は雪国出身ですが、最近寒い所が苦手になり雪山には行く機会もなくなっていました。しかしある時、他法人の雪遊びに参加し、そこで見た利用者さんの表情が本当にいきいきとしており、目も輝いていました。是非ユニオンの利用者さんにも感じてもらいたいと思つており、企画させてもらいました。

本で見たり、人から話を聞いたりと、実際に体験し、感じることで大きな違いがあります。これからも非日常体験を通して、何か人生の糧を考えていきたいと思つています。今年参加できなかった利用者さんより「次回の雪山行事には参加したい」と嬉しい声が聞こえています。

(島村)

職員紹介



河野 新 (こまの しん)

学生時代は調理関係のバイトに明け暮れ、医療関係の営業、高齢者施設の職員を経て、ユニオンに入職しました。宿直専門職員として働き始め、職員として採用されて2年強になります。

安心感があって、利用者さんや職員を和ませるのが得意な「気遣いの達人」です。趣味はバイクと音楽鑑賞。整理整頓や模様替えも趣味と言つていいほど、率先してアイデアを出してくれる頼れる存在です。

福淵 寿枝 (ふくふち のぶえ)

「観劇汝を玉にす(かんなんなんじをたまにす)」。人

編集後記

人は苦勞を乗り越える事によって初めて立派な人間になると言う西洋の諺を「座右の銘」にしている彼女。その誰の通り苦勞をいとわず、支援に対しても熱い思いが有り、事業所内で会議をする時と納得がいくまで時間を掛けるほどです。夢は海外旅行に行く事でヨーロッパ辺りを観光したいそうです。

岡本 好元 (おかもと のほもと)

一般企業に勤めて約30年。その内の数年間は知的な障がいがある方と仕事をする機会があり、その真面目な働きぶりを見て、それまでのイメージが変わったそうです。「こんな人たちの力になれば……」という気持ちから、新たな世界に飛び込みました。ユニオンに入つて約1年半になります。

趣味は仕事と睡眠。ピー

トルズ好きの彼は、利用者さんに温かい眼差しを向けています。(原・助野)

▼安心できる暮らしには、何が必要かと考えます。住まい、収入、健康、仲間、楽しみ……。そして、心の安定が不可欠ではないでしょうか。▼利用者さんの中には、いつも何かしら不安を抱えていたり、ふとしたことで悩んでしまう人がいます。傍から見ると些細なことでも、その人にとっては一大事なのです。▼職員と相談してすぐ解決するものもあれば、毎日同じ話を繰り返すことで、落ち着くことができない場合もあります。▼不安をゼロにすることは難しい。しかし、誰かに「大丈夫だよ」と言ってもらふことで、心は軽くなります。一緒に考えてくれる人が側にいることで、安心につながります。▼そんな心の支えが制度化される日がいつ来るかはわかりませんが、これからも利用者さんの心に寄り添う支援を心がけたいと思つています。(N)